

鎌倉の埋蔵文化財Ⅺ

Buried Cultural Properties in Kamakura 11

平成18年度発掘調査の概要



平成20年3月

鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉の地下には、かつて栄えた中世都市が埋蔵文化財として今でも多く残っています。これらの埋蔵文化財は残念ながら、さまざまな土木工事等によってそのままの姿で保存できないことが少なくありません。工事で失われてしまう埋蔵文化財と現在の市民生活との調和をはかるために、現状保存のかなわない遺跡については発掘調査を実施して可能な限り記録化を図り、その様子を私たちが理解できるようにすると同時に、将来へ伝え活用してゆくこととしています。

鎌倉市教育委員会では発掘調査関係者のご協力を得ながら『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、文化財めぐりでの発掘調査現地説明会、鎌倉駅地下道ギャラリーでの埋蔵文化財パネル展示、遺跡調査・研究発表会などの事業を実施して発掘調査の成果を皆様にご紹介しています。

『鎌倉の埋蔵文化財11』では平成17年度から18年度にかけて発掘調査を実施した遺跡のなかから、代表的なものを選んでその概要をお知らせいたします。本誌をご覧になる皆様にも往時を生きたひとびとの姿が彷彿^{ほうふつ}としてくるのではないのでしょうか。これからもさまざまなかたちで発掘調査の成果をお知らせするよう努めてまいります。今後とも埋蔵文化財に対するご理解とご協力をお願いいたします。

～目次～

| | |
|-------------------|----|
| 1 若宮大路周辺遺跡群 | 2 |
| 2 若宮大路周辺遺跡群 | 5 |
| 3 鎌倉城 | 7 |
| 4 今小路西遺跡 | 9 |
| 5 能蔵寺跡 | 11 |
| 英文要旨 | 13 |

～例言～

◎本書は平成17～18年度に市内で実施した主な発掘調査の概要を掲載しました。

本書に掲載した遺跡の調査概要は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。

香川達郎、菊川英政、鯉淵義紀、齋木秀雄、滝沢晶子、原廣志、宮田眞（50音順・敬称略）

《表紙写真》若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目333番2地点）発掘調査区（Ⅰ区）全景写真

◎表紙題字は松尾右翠氏に揮毫をお願いしました。

1 わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群 (小町一丁目333番2地点)

The sites surrounding Wakamiya-oji

鎌倉時代の倉町を発見

若宮大路周辺遺跡群は、若宮大路を中心として東は滑川、西は今小路までひろがる、中世都市鎌倉の中核域にあたる遺跡群です。今回の調査地点は本覚寺の北側に位置し、平成18年度から19年度にかけての発掘調査によって、少なくとも23棟の半地下式の建物跡が発見されました(写真1・2)。また鎌倉に輸入された陶磁器類も多く出土し、中国の浙江省で生産された青磁の碗が20個以上集中して発見されたことは注目されます(写真3・4)。

数多く発見された半地下式の建物は、木組の構造で倉庫跡と考えられます。半地下式の倉庫跡は全国的に発見されていますが、木組構造のものは鎌倉に特徴的なようです(写真5)。鎌倉時代の建物が朽ち果てず、現在まで地中に眠っていたことは稀なことで、全国的にみても大変重要な発見といえます。



写真1 若宮大路周辺遺跡群発掘調査区(I区)全景

Full view of the excavated area in the sites surrounding Wakamiya-Oji (area I)



写真2 若宮大路周辺遺跡群発掘調査区（Ⅱ区）全景

Full view of the excavated area in the sites surrounding Wakamiya-Oji (area II)



写真3 建物21青磁碗出土状況

Pit building No.23

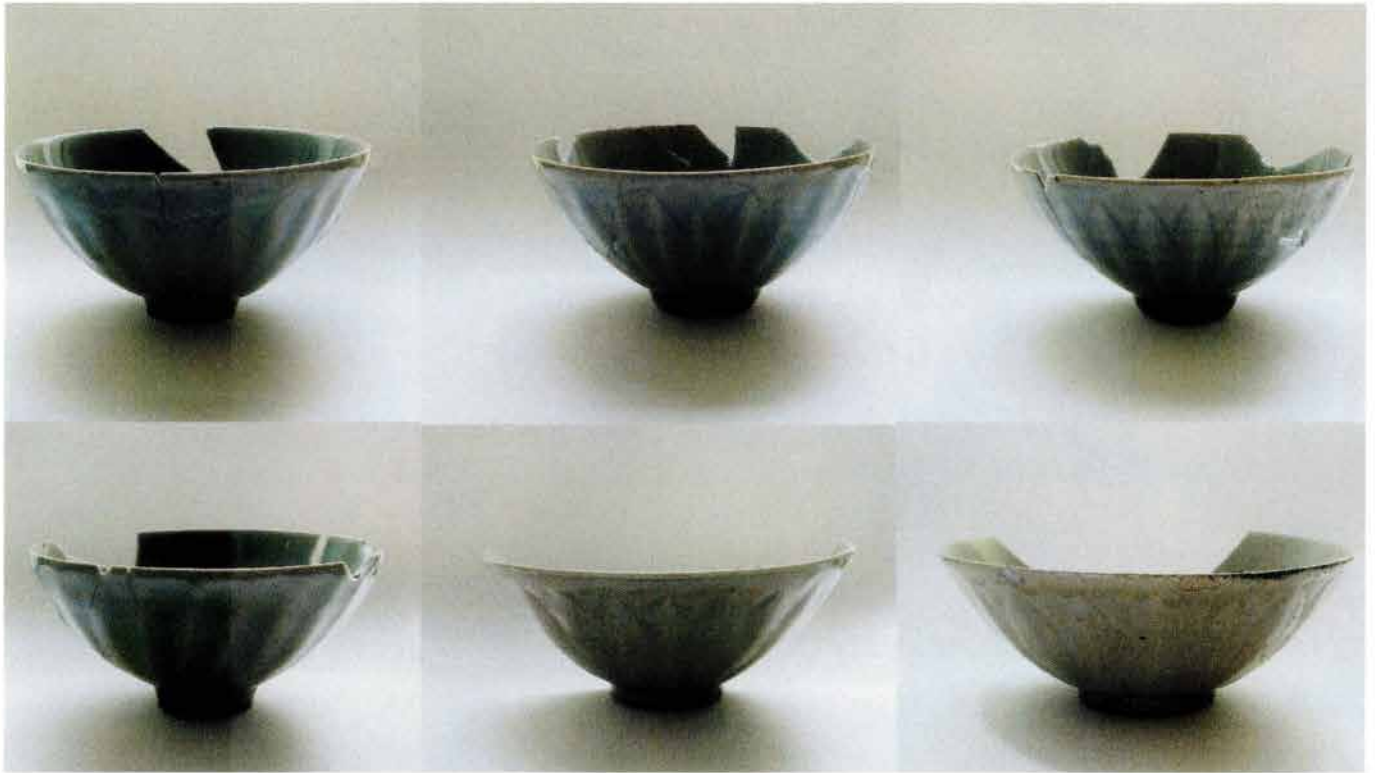


写真4 出土した青磁碗
Celadon bowls



写真5 建物3
Pit building No.3

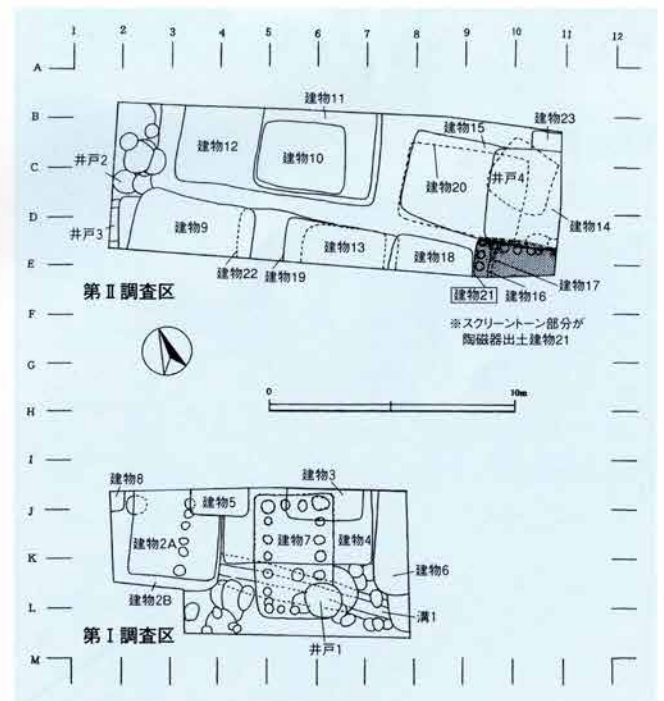


図1 遺構配置図（発掘調査区全景）
Distribution of remains (Full view of the excavated area)

2 若宮大路 周辺遺跡群 (小町一丁目117番3外4筆地点)

The sites surrounding Wakamiya-oji

地面を覆う“かわらけ”の大量出土

2～4ページでご紹介した若宮大路周辺遺跡群のうち、本地点は若宮大路をはさんだ西側に位置します。

まず注目されるのは、“かわらけ”と呼ばれる素焼きの土器が大量に出土したことです（写真6）。“かわらけ”は饗宴などで使用された、一度限りの使い捨て容器だったようです。今回の発掘調査によって饗宴の際に大量に使われ、捨てられた状況が発見されたといえます。“かわらけ”という呼び名は清少納言が記した『枕草子』に「土器」と記載があり“かわらけ”とルビがふられていたことによって

います。その“かわらけ”に混じって轡くつわが出土しました（写真7）。轡は馬の口に嚙ませ、手綱たづなを取り付ける道具です。中世鎌倉は武士の都と呼ばれていますが、武士とかかわりの深かった馬も多くいたと思われます。しかし馬具の出土例は決して多くはありません。このことは馬具や武具が修理されながら、長い間受け継がれていたことが要因と考えられています。

そのほか、溝跡や井戸跡、掘立柱建物跡などが発見され、銅鏡や漆器など多くの遺物が出土しました（写真8・9）。



写真6 かわらけ集中出土状況
“Kawarake” excavated



写真7 轡出土状況
Harness excavated



写真8 和鏡出土状況
Japanese mirror



写真9 井戸発見状況
A well

鎌倉時代の寺院跡を発掘

調査地点は鎌倉市役所の北側、銭洗弁財天へ抜ける佐助トンネル南側の一段高い位置にあたります。発掘調査は平成17年から18年度にかけて行われ、鎌倉時代の寺院の一角と考えられる建物跡が発見されました。調査地点一帯は無量寺^{むりやうじ}という中世寺院が存在していたという伝承があり、本調査地点も無量寺との関係が予想されます。

注目すべき成果は、方丈^{ほうじょう}と庫裏^{くり}と推測される建物跡が発見されたことです（写真12・14）。方丈と推測される礎石建物は、東西四間、南北三間の建物です。また庫裏と推測される建物には^{いろり}囲炉裏が発見され、ここで僧侶の日常生活が営まれていたことが推測されます。鎌倉の寺院生活の一端を示す貴重な調査成果といえます。

また鎌倉には数多くの“やぐら”と呼ばれる墓が残っていますが、本地点でも方丈の裏手にやぐらが発見されています。



写真10 掘立柱建物（庫裏）発見状況
A building ("Kuri")

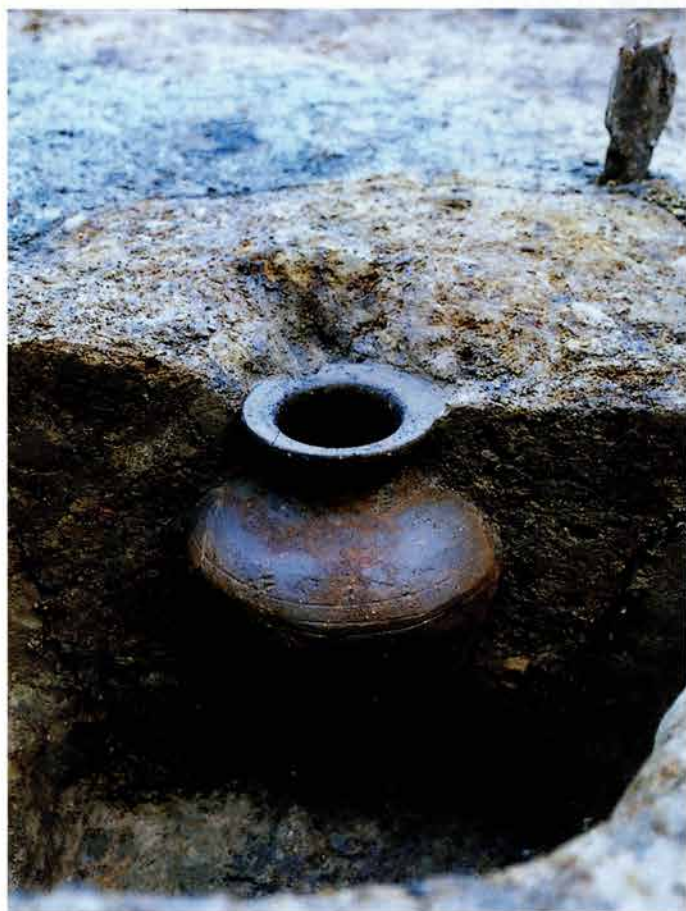


写真11 埋め甕の調査状況
Ceramic ware excavated

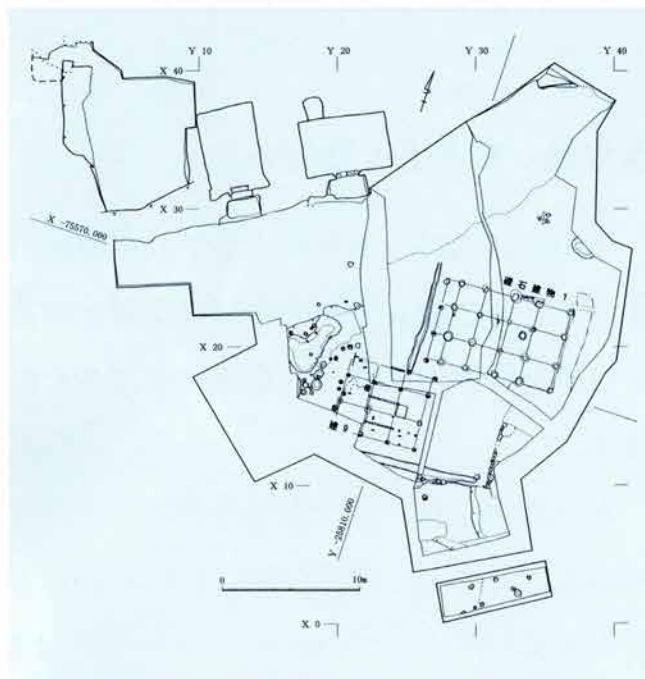


図2 遺構配置図（発掘調査区全景）
Distribution of remains (Full view of the excavated area)



写真12 礎石建物（方丈）発見状況
A building ("Hojo")

製作地が刻まれた陶器が出土

今小路西遺跡は市立御成小学校東側に沿って南北方向に走る今小路の西側一帯の範囲です。ここでご紹介する調査地点は鎌倉市福祉センターの南側に位置しています。発掘調査では鎌倉時代の半地下式倉庫跡や数多くの柱の跡、古墳時代の河川跡などが発見されています。

本地点で発見された古墳時代の河川跡は、旧佐助川の可能性があり、古墳時代の鎌倉の地形を考える上で重要な資料となります(写真13)。また出土品の中には「ヲハリ」と刻まれた陶器が出土しています。「ヲハリ」は愛知県の一部の旧国名「尾張」^{おわり}と考えられ、このように製作地が分かる例は全国的にも珍しく、貴重な発見と言えます(写真15、図3)。



写真13 今小路西遺跡発掘調査区全景

Full view of the excavated area in the Ima-koji west site



写真14 遺物出土状況
"Kawarake" excavated



写真15 文字が刻まれた陶器
The ceramic is recorded Wowari

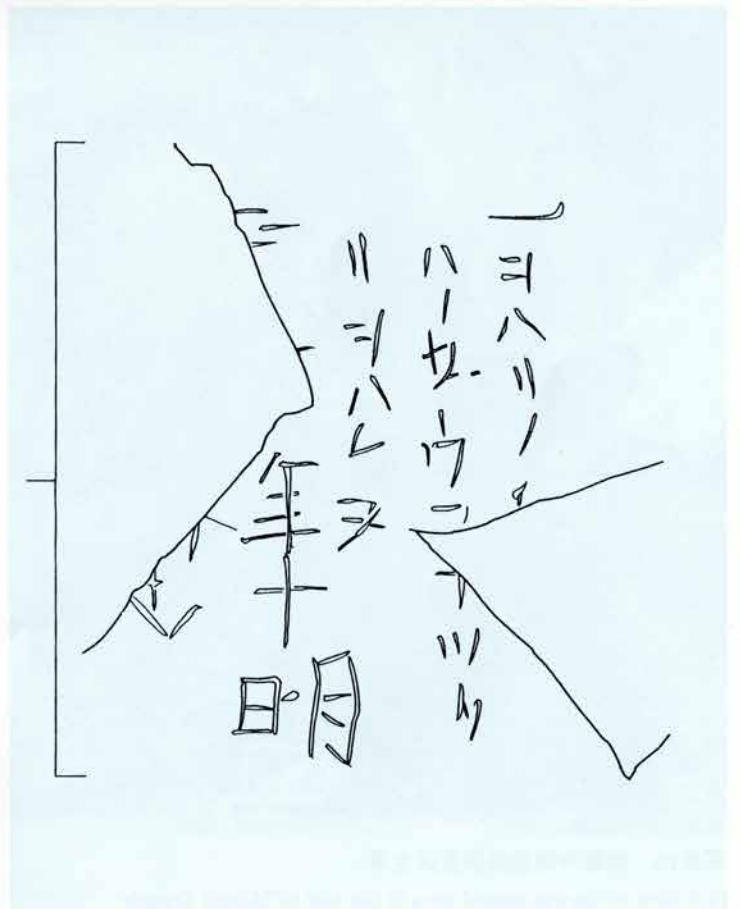


図3 同拡大図
The ceramic is recorded Wowari

The site of Nozoji Temple

室町時代から江戸時代の墓を発見

調査地点は材木座の来迎寺の北側にあたり、能蔵寺跡という遺跡の範囲内にあります。この付近の字名を能蔵寺といい、寺院があった場所と伝えられています。

発掘調査では、室町時代から江戸時代前半までの、26基以上の土葬の墓が発見されました。中には副葬品や“三途の川の渡し賃”といわれる^{ろくどうせん}六道銭が供えられているものも出土しました。

図を見ると、人骨は横向きで足を折りたたんだ姿勢で埋葬されており、“側臥屈葬”^{そくがくつそう}と呼ばれる姿勢をとっています。遺体の頭の方角は統一されていなかったようです。

本調査事例は中世後期から近世までの鎌倉を知る上で貴重な資料といえます。



写真16 能蔵寺跡発掘調査区全景

Full view of the excavated area in the site of Nozoji Temple



写真17 人骨発見状況（1）

Bone of the person (1)

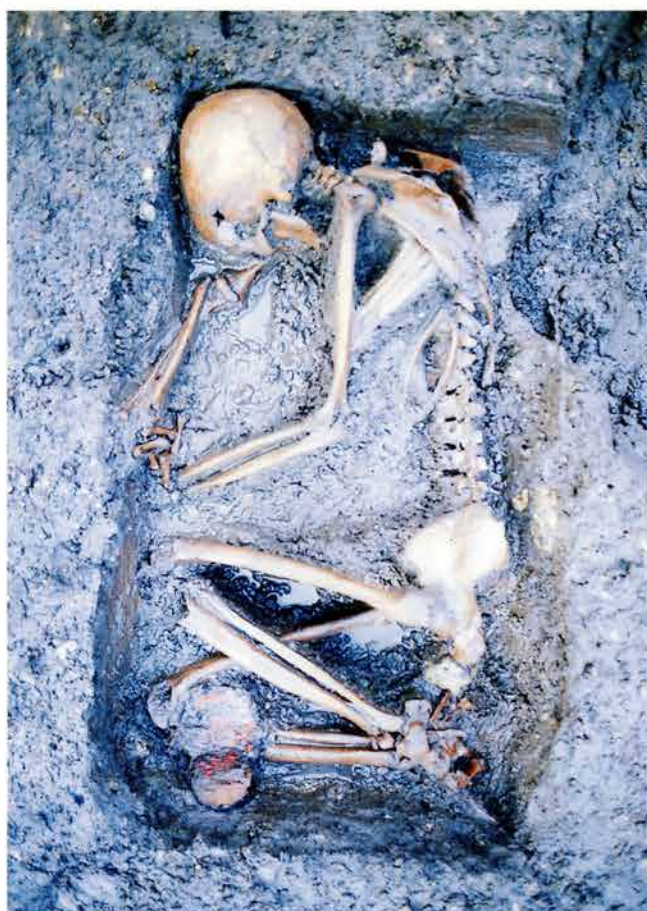


写真18 人骨発見状況（2）

Bone of the person (2)

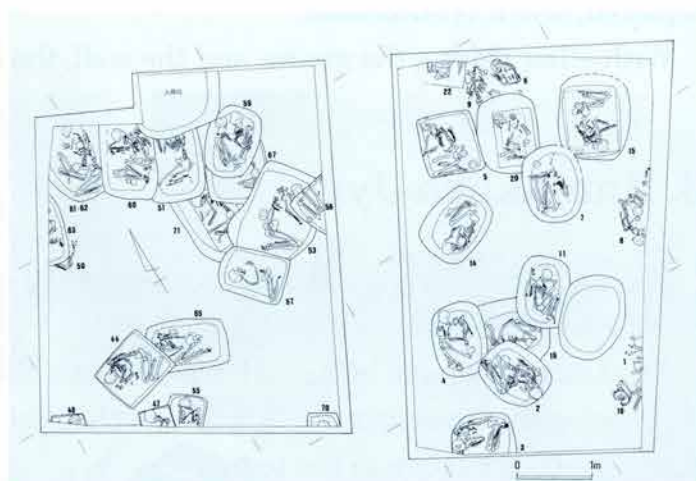


図4 遺構配置図（発掘調査区全景）

Distribution of remains (Full view of the excavated area)

Buried Cultural Properties in Kamakura 11

1. The sites surrounding Wakamiya-Oji

The sites surrounding Wakamiya-Oji is central area of medieval city Kamakura. The sites area is between Namerikawa and Ima-Koji, Wakamiya-Oji as a center. Research position is on the north of Hongakuji Temple.

The pit building was discovered 23 and more, for the archaeological investigation. And many ceramic wares were discovered. Those were produced in China, were imported mainly in Kamakura. Many celadon bowls discovering concentration is observed.

The pit building is thought warehouse. Discovering the pit building of Kamakura era is one of most important in Japanese archaeological investigation.

2. The sites surrounding Wakamiya-Oji

This research position is the sites surrounding Wakamiya-Oji too. This place is on the west of Wakamiya-Oji.

Discovering the many “Kawarake” is observed. “Kawarake” is earthenware, and it is disposable cup. The circumstance which was many used was discovered for the archaeological investigation.

Harness was discovered in those. But harness is few in Kamakura sites. Because these are repaired, and it is succeeded.

With other things, the groove and the well, the building was discovered.

3. Kamakura-Jyo

The investigation position is on a north of the Kamakura city hall. This position has a legend as Muryouji Temple.

The trace of temple of Kamakura era was discovered. The two building was discovered for archaeological investigation. Those are thought “Hojyo” and “Kuri”. “Hojyo” is monk’s living room. “Kuri” is kitchen in the temple.

There are many graves in Kamakura hill. These graves are called “Yagura”. “Yagura” graves were discovered in this investigation position too.

4. Ima-Koji west site

Ima-Koji west site is on the west Ima-Koji. Ima-Koji is one of mainly north and south road in Kamakura city. This research position is on the south Kamakura city welfare center.

The pit building and trace of pillar was discovered many. The pit building is thought warehouse as same as the sites surrounding Wakamiya-Oji.

The trace of river in Kofun era was discovered. This trace is thought Sasuke river of Kofun era. When thinking of Kamakura topography of Kofun era, it is important.

The ceramic is recorded Wowari, it was discovered. Wowari is thought Aichi prefecture of present. It has shown production area.

5. The site of Nozoji Temple

This research position is on the north Raigoji Temple. This area is called "Nozoji" This position has a legend as Temple of Kamakura era.

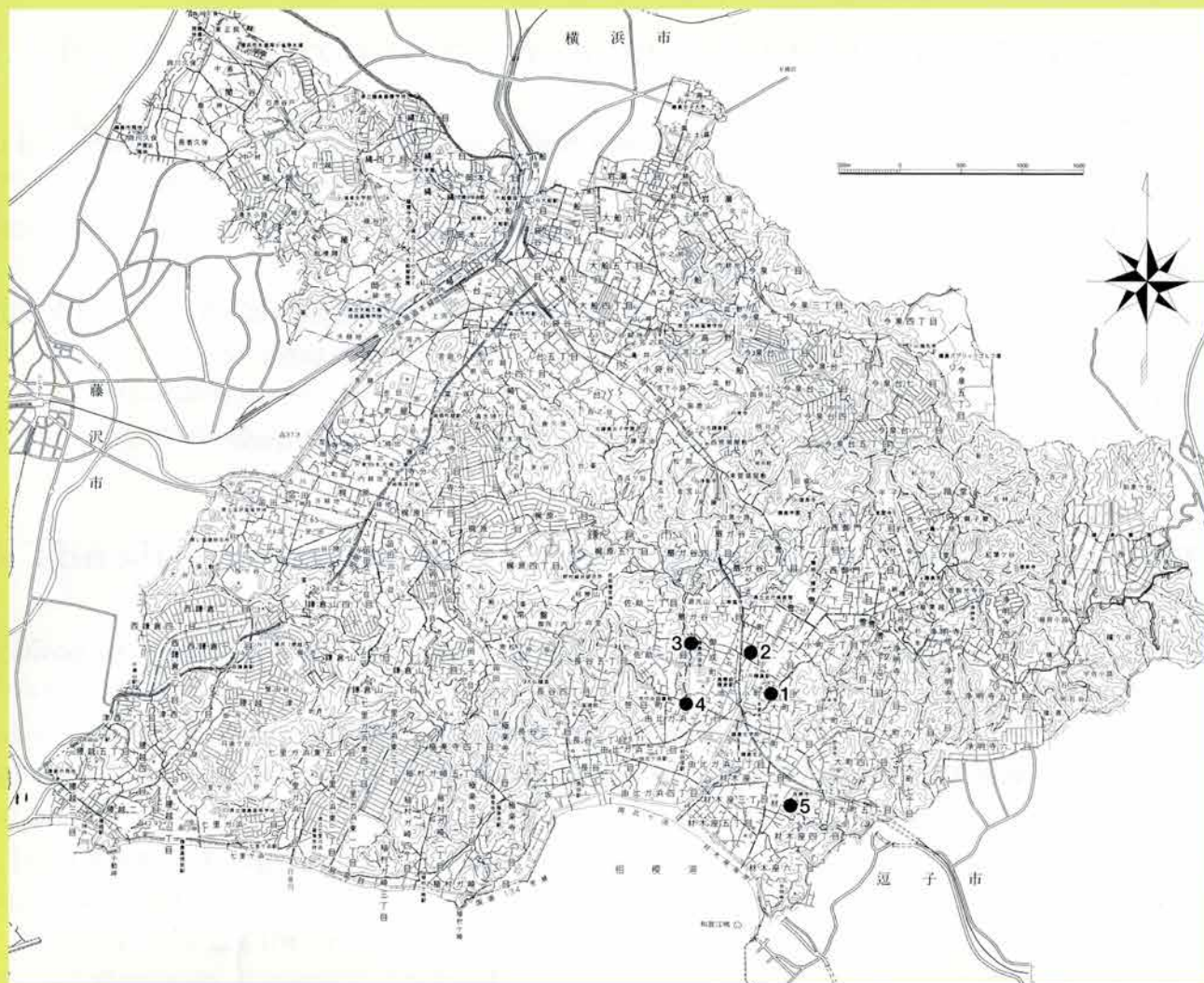
The graves were discovered 26 and more, for the archaeological investigation. These graves were made between the Muromati era and the Edo era. The bone of the person lied in the grave. He had the coin and the cup. Those are the funeral item.

When you look at the figure, their bodies it has not extended. Either direction of the head is not standardized.



写真19 銅製鋌（若宮大路周辺遺跡群 小町一丁目333番地2地点）
Part of arms (the sites surrounding Wakamiya-Oji)

本書掲載の調査地点



(鎌倉市発行の25,000分1地形図)

《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

1. 若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目333番2地点）
2. 若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目117番3他4筆地点）
3. 鎌倉城（御成町39番36地点）
4. 今小路西遺跡（由比ガ浜一丁目141番5外地点）
5. 能蔵寺跡（材木座二丁目293番2地点）

鎌倉の埋蔵文化財11

発行日 平成20年3月31日
編集・発行 鎌倉市教育委員会
印刷 グランド印刷株式会社
